

特別支援学級国語科学習指導案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなろ学級）

4人（1年男子1人，5年男子3人）

指導者 秋 田 護

1 題 材 名 「カレンダーに思い出を書こう」

2 題材について

(1) 題材の価値

対象となる1年生の子どもは、これまでに平仮名や片仮名を書いたり読んだりする学習や、1～2文程度の文を読み、「誰が」「何が」を読み取る学習をしてきている。また、文字への興味が高く、入学当初から平仮名、片仮名を読むことができ、漢字やアルファベットなども「これ何」などと尋ねて、繰り返し聞くことで覚えることができている。しかし、その文字や文を自分だけに分かるように音読することがほとんどであり、文を書く際にも、経験した出来事などの事実のみを書き、思ったことや気持ちを入れることは難しい状況である。

そこで、本題材では、カレンダーの作成という目標を立てるようにする。その中で、子どもの興味・関心の高かった4月から10月までに経験した学校行事等を取り上げ、写真を基に行事の内容を発表したり、文章にしたりする活動を設定したい。経験したことを題材にするため、楽しかったことを誰かに伝えるという相手意識ももち続けることもできると考える。さらに、状況にあった気持ちを選んで書き加えるようにする。また、共通した体験を文章にし、クイズ形式で友達に伝えることで、楽しみながら学習に取り組むことができるようにする。発表では、互いに体験していることであるため、互いの発表等も分かった、分かってもらえたという達成感を味わうこともできると考える。

指導に当たっては、まず、「楽しい」「うれしい」などの基本的な気持ちを絵カードと言葉をマッチングすることで知ることができるようにする。さらに、経験した学校行事等の写真を見て、友達からも意見をもらいながら思い出すことで、楽しかった出来事について自分が何をしているかを「ぼくは〇〇をしました。」という文に書くことができるようにしたい。その際に書き込み式のワークシートを準備することで、同じパターンで自信をもって取り組むことができるようにする。加えて、学習した気持ちを表す言葉のカードを準備することで、その中から選んで書くことができるようにする。読む際には、速く読んでしまうことがあるため、相手を確認し、読むときの注意を見せることで、相手を意識してゆっくり読むことができるようにする。

対象となる5年生の子どもたちは、これまでに漢字を読んだり書いたりする学習や、5～6文程度の文章から理由などを読み取る学習をしてきている。しかし、日記や体験したことを書く活動では、事実を書き、最後に「楽しかったです。」という文を付け加えるパターンに終始しており、自分の気持ち等を上手く書き表すことは難しいようである。また、聞く活動では、友達の発表を聞くことを苦手としている。

そこで、本題材では、カレンダーの作成という目標を立てるようにする。その中で、子どもの興味関心の高かった一年間の学校行事等を取り上げ、写真を基に行事の内容を発表したり、文章にしたりする活動を設定したい。経験したことを題材にするため、楽しかったことを誰かに伝えるという相手意識ももち続けることもできると考える。さらに、状況にあった気持ちを考えたり、選んだりして書き加えるようにする。また、共通した体験を文章にし、クイズ形式で友達に読んでもらい、聞き取ることで、楽しみながら学習に取り組むことができるようにする。互いに体験していることであるため、発表では、互いの発表等も分かった、分かってもらえたという達成感を味わうこともできると考える。

指導に当たっては、まず、「楽しい」「うれしい」などの基本的な気持ちなどについて絵カードと言葉をマッチングすることで、知っている気持ちの言葉をさらに広げていくことができるようにする。そして、経験した一年間の学校行事等の写真を見て、友達からも意見をもらいながら思い出すことで、出来事について書いて発表し、友達に伝えることができるようにする。書く際には事実に加えて、掲示物やカードを見ることで、気持ちを選んで書き加えることができるようにする。また、これまでいつも使っている「楽しい」という気持ちを書く際には、教師の問い掛けに答えることで、「何が」楽しかったのかを具体的に書くことができるようにする。さらに、聞く活動においては、クイズ形式で問題を出すことで、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」や「どんな気持ち」などを聞き取ることができるようにする。

このような学習を通して、体験したことについてまとめる活動や毎日取り組んでいる日記を書く活動において、自分の気持ちを書いたり、自分の気持ちの表現を広げたりしていくことで、文章が豊かになっていくものと考えられる。

(2) 題材の目標

A児1年	B児5年	C児5年	D児5年
○ 自分が経験したことを写真を見て思い出して書き、状況に合った気持ちを選んで書き加えることができる。 ○ 聞く相手がいることを確認して速さに気を付けて読むことができる。	○ 自分が経験したことを写真を見て思い出して書き、掲示物などを見ながらそのときの気持ちを考えて書くことができる。 ○ 友達が話すときは集中して聞き、与えられた内容を聞くことができる。	○ 自分が経験したことを写真を見て思い出して書き、状況に合った気持ちを選んで書き加えることができる。 ○ 友達が話すことが書いてある文を見ながら聞き、質問に答えることができる。	○ 自分が経験したことを写真を見て思い出して書き、そのときの気持ちも考えて書くことができる。 ○ 聞くときは自分に与えられた内容を意識しながら聞き、質問に答えることができる。

(3) 子どもの実態

	A児1年	B児5年	C児5年	D児5年
個別の指導計画	- 文を読む際に聞く相手がいることが分かり、ゆっくり読むことができる。 - 事実に加え、気持ちを表す文を選んで書くことができる。	- 話す相手を見ながら話を聞くことができる。 - 拗音や促音に気を付けながら、自分の気持ちをもち書き加えることができる。	- 文を見ながら聞き取ることや話す相手を意識して話を聞くことができる。 - 事実に加え、気持ちを表す文を選んで書くことができる。	- 話を聞く際は、相手を見て、最後まで話をせずに聞くことができる。 - 状況に合った気持ちを表す言葉を書くことができる。
関・意・態	折り紙の作り方の本や、「ねずみくんシリーズ」の本を好んで読んでいる。文字が好きであり、国語の学習にも意欲的に取り組んでいる。	進んで借りる本は図鑑が多く、読み物の世界に入る楽しさを味わうまでには至っていない。漢字の学習に意欲的に取り組むようになってきた。	決まった絵本を好んで読んでおり、国語科の学習にも意欲的に取り組んでいる。手本があると、自分からその字をまねて漢字も使って文を書いている。	図鑑や物語の本を好んで読んでおり、国語の学習にも意欲的に取り組んでいる。理解力も高く、新しい学習（漢字等）への意欲もとても高い。
聞く・話す	自分の思いを伝えることはできるが、質問に適した答えを言うことは難しい。教師と1対1で話をするとは聞けるが、全体の中では聞くことが難しい。	人とかかわりを好み、その場に関係のない質問をしたり、自分の思いだけを次々と話したりすることがあるが、教師の言葉掛けで話を聞くことができるようになってきた。	話をする際は、自分から4語程度の言葉で話すことができるようになった。1対1ではしっかりと聞くことができるが、友達と一緒に話をする際は聞き落とすことがある。	言葉も豊富で話や発表も上手にできる。言葉を聞いてしっかりと理解することができるが、自分の興味のあることや、作業に夢中になると指示等を聞き落とすことがある。
読む	平仮名や片仮名、曜日の漢字であれば読むことができ、「誰が」「何が」などという問いに問題文が1文であれば答えることができる。 教材文等を読むときは早口になり友達が聞き取りにくいことが多い。	平仮名や片仮名、一年生程度の漢字は読むことができる。読むことは得意ではないが、繰り返し練習することで、上達がみられる。自信がない文を読むときは声が小さくなる。	平仮名や片仮名、一年生程度の漢字は確実に読むことができる。行をまたいで言葉が書かれていると、言葉の切れ目をうまく読むことができないこともある。読むときの声が小さくなる。	5, 6文から読み取る問題でも問われたことにきちんと答えることができる。また、教材文を読む際は、抑揚をつけて友達が聞き取りやすい大きな声で読むことができる。
書く	日記では思ったことや感じたことを書くことはできないが、自分がしたことを書くことはできる。4月には1, 2文だった文章は、4文程度に増えてきたが、箇条書きで一文一文のつながりがないことがほとんどである。日記などに書き表す際には気持ちを表す言葉は入らない。	5, 6文で、楽しかったことなどを日記に書いたり、かいた絵に関する文を書いたりすることができる。ラ行の発音が苦手であり、書く際も書き間違えることがある。話す際はいろいろな気持ちを言うことができるが、「楽しい」以外の言葉を書くまでには至っていない。	5, 6文で、楽しかったことなどを日記に書いたり、かいた絵に関する文を書いたりすることができる。題材は自分が興味のある飼育小屋の動物に関することなどが多く、決まったパターンになりがちで、最後は「楽しかったです」で終わることがほとんどである。	5, 6文で、楽しかったことなどを日記に書いたり、かいた絵に関する文を書いたりすることができる。話す際の言葉は多く、難しい言葉も話す。書く際の文の最後は常に「楽しかった」で終わり、知識としてある気持ちを表す言葉を書き表すまでには至っていない。
認知の特性	視覚優位で言葉による情報入力に苦手である。特に文字による情報入力に得意であり、目に入る文字を何でも読みたがり、文字などを見るために授業中も離席が多くなる傾向がある。	聴覚による入力に得意であるが、聴覚による入力後記憶することが苦手である。視覚的な記憶に得意であるため、視覚的な情報を必要とする。注意を持続することが苦手である。	考えたり判断したりすることに時間がかかるが、視覚的な情報を基にすると判断することができる。そのため、全体で話を聞く際には注意して聞くことが苦手であるが、1対1の会話は楽しんでいる。	耳慣れない言葉や、長い言葉による指示は理解が難しい。これはよい、これはだめということが理解できていないことがあるため、活動前に確認し、活動を行うようにする必要がある。

3 指導に当たって

本題材の指導に当たっては、子どもが「学び」をつなぎ、「学び」を生かし、達成感を味わうことができるように、以下の点に留意して指導をしていく。

○ 研究内容1 子どもが他者を意識し、「学び」をつなぎやすい状況づくり

- ・ 伝える相手、伝えてくれる相手を確認して読んだり書いたりすることで、相手意識をもつことができるようにする。
- ・ 共通体験を基にした体験活動を教材化し、子どもが、知識や経験を話してみんなで意見を発表し合ったり、共感したりしやすいようにすることで、互いの「学び」をつなぐことができるようにする。
- ・ 気持ちを表す言葉については掲示物や、手元で見ることができるカードなどの視覚的な情報を準備することで、書いた内容に応じた適切な言葉を選ぶことができるようにする。
- ・ ワークシートではめあてを達成できたかという振り返る視点を具体的に示したり、項目を選択したりできるものにすることで、自己評価のポイントが分かり、本時の「学び」を振り返ることができるようにする。また、互いができたことも確認することができるワークシートにし、伝え合うことで、よさを認め合うことができ、「やった。できた。」という自信を高めることができるようにする。

○ 研究内容2 子どもが自己の「学び」を生かしやすい状況づくり

- ・ 作成したカレンダーは、生活単元学習の学習の一環としてバザーで販売することで、多くの人に見てもらったり、認めてもらったりする機会をつくり、達成感を味わうことができるようにする。

4 指導計画（全9時間）

過程	時間	指導のねらいと主な学習活動	
		A 児	B児・C児・D児
一次	3	「気持ちを表す言葉を知ろう」 【指導のねらい】 どんな場面でどんな気持ちを表す言葉があるか知ることができる。 【活動内容】 1 子どもの日記で気持ちを表す言葉が書かれているところを探す。 2 設定された場面でどのような気持ちになるか知る。	
二次	4 (本時3/4)	「写真を見て書こう」 【指導のねらい】 経験したことを振り返って、していることや思ったことを書くことができる。 【活動内容】 1 4月から10月に行われた行事等の写真を見て、自分が何をしているか書く。 2 どんな気持ちだったか教師と一緒に考える。 3 教師と一緒に考えたことを書く。	【活動内容】 1 一年間の行事等の写真を見て、自分や友達が何をしているか書く。 2 どんな気持ちだったか書く。 3 自分が書いた文を読み返し、丁寧に書く。
三次	1	「友達に問題を読もう」 【指導のねらい】 友達が聞き取りやすいように読むことができる。 【活動内容】 1 5年生に問題文を読む。 2 もう一度読んで、みんなで一緒に答え合わせをする。	「友達が読む問題をよく聞いて答えを書こう」 【指導のねらい】 友達が読む文や、友達の質問を聞いて、正しく答えることができる。 【活動内容】 1 1年生が読んだ問題文をよく聞いて、聞き取った答えを書く。 2 全員で一緒に答え合わせをする。
四次	1	「出来上がったカレンダーを見て、自分が書いた言葉を発表しよう」 【指導のねらい】 自分が担当した月の自分がかいた絵を掲示しながら、書いた言葉を発表することができる。 【活動内容】 1 出来上がったカレンダーを提示しながら、自分が頑張ったことを発表すると共に、友達からの感想を聞く。	

5 本 時 (6 / 9)

(1) 目 標

- 自分が担当するカレンダーの月の月の行事について、出来事とそとのときの気持ちを書くことができる。

個人 目標	A児 1年	○ 気持ちの言葉が書いてあるヒントカードを教師が提示することで、自分の気持ちを自分で書くことができる。
	B児 5年	○ 掲示された気持ちを表す言葉を見ることができ、「楽しい」「楽しい」以外の気持ちを表すことができる。「楽しい」を使う際は何か楽しかったか書いたりすることができる。
	C児 5年	○ 気持ちの言葉が書いてあるヒントカードを見て、自分の気持ちを自分で書くことができる。
	D児 5年	○ 教師の問い掛けに答えることで、状況に応じた気持ちを想起し、書くことができる。

(2) 展 開

☆はICT機器活用上の留意点

主 な 学 習 活 動		子どもに応じた具体的な指導				
過程 (分)		A 児	B 児	C 児	D 児	
つかみ・みとおす (10)	1 学習計画を確認する。 2 本時のめあてを確認する。 ○月のカレンダーに書く文を書こう。 (1) めあてを読む。 (2) めあてをワークシートに書く。	カードから気持ちを 選んで書こう。	気持ちの言葉を探 して書こう。	カードを見て気持 ちを書こう。	気持ちの言葉进行考 えて書こう。	
	3 学習の進め方を確認する。 (1) 写真を見てみんなで思い出を振り返る。 (2) みんなで振り返った思い出を見ながら、自分が書きたいことを書く。 (3) 気持ちの言葉に気を付けて書く。 (4) 発表する。	教師が準備した気持ち の言葉が書いてあるカー ドを選ぶことで、自分の 気持ちを表すことができ るようにする。	気持ちの言葉を揭示し、 自分で見ることができ るようにすることで、自 分の気持ちを表すことが できるようにする。	教師が準備した気持ち の言葉が書いてあるカー ドを見ることができ、自 分の気持ちを表すことが できるようにする。	書いたときのことを教 師が質問することで、気 持ちを言葉に表し、その 言葉を書くことができる ようにする。	
	4 学習の進め方に従って学習を進める。	☆ 発表の際は、子どもが書いた文を書画カメラで映すことで、聞くだけでなく見て確認できるようにする と共に、子どもが操作することで、楽しみながら活動できるようにする。				
	5 本時の学習を振り返る。 (1) 頑張ったことや感想を発表する。 6 次の学習について知る。	☆ 頑張ったことの発表の前に自分の個人目標を見て確認することで、その点を中心として反省を考えるところ とができるようにする。				
ふりかえる (5)		振り返りの際、どのような気持ちを表す言葉を書くことができるか確認すること、経験したことと気持ちを比べながら書くことができるようにする。	たくさんの気持ちの中からその時の気持ちを自分で選ぶことができたことを、具体的に称賛することで、できたことへの自信を高めることができるようになる。	振り返りの際、どのような気持ちを表す言葉を書くことができるか確認すること、経験したことと気持ちを比べながら書くことができるようにする。	気持ちについて聞かれたときに、適切に答えることができたことを具体的に称賛することで、できたことへの自信を高めることができるようにする。	